

韓流スター パク・ヨンハ氏の急逝がきっかけで
社会人経験のない専業主婦の快進撃がはじまった！

「やってみたい」と思った 今がそのとき

2025年
6月17日発行

株式会社あさ出版(代表取締役:田賀井弘毅、所在地:東京都豊島区)は花岡理恵著
『「やってみたい」と思った今がそのとき』を2025年6月17日(火)に刊行いたします。

**44歳で韓国語学習をスタート→
わずか7年で人気ドラマの映像字幕監修者に**

「いつ極端な選択をしてもおかしくない」というほど、重度のうつ病をわずらっているとき、
救いは推しである韓流スター パク・ヨンハ氏だった著者。

しかし、ヨンハ氏は自殺。悲しみに打ちひしがれながらも、「(生きる希望を持たせてくれた
彼に)墓前で韓国語でお礼を伝えたい！」と一念発起し、44歳で初めて韓国語学習を開始。

その決断こそ、のちに語り草になる、わずか7年後、51歳で日本トップレベルの韓国語の
映像字幕監修者となった、常識を打ち破る快進撃のはじまりだった――。

25年ものあいだ、普通の専業主婦として生きてきた著者が、その行動を通し得たものと
は？ヨンハ氏のお墓参りはできたのか？

「重度のうつ病」「推しの自殺」「韓国語習得」など、著者が経験したさまざまなことを元に、
「何かしたい」と思ったときに、躊躇してしまいがちな女性の背中を柔らかに押す、「自分の
気持ちにブレーキをかけない」生き方を書いた1冊です。

勇気を出して一步を踏み出す (以下 本書“はじめに”より抜粋)

今、こうして振り返ってみると、私の人生の転機において共通するのは、「やってみたい」
という自分の心に、素直に従ってきたということです。

年齢や過去の経験、外野の声にとらわれることなく、「やってみたい」という自分の気持ちを
を大事にし、`そう思ったとき、こそが行動を起こすタイミングなのだ」と心に決めて、不安
や怖さもあるけれど、まずは勇気を出して一步を踏み出してみる。

ときに大きすぎる一步にも感じ、「まだ早いのでは」とおじけづくことも、背伸びすることも
多々ありましたが、何とかそのように歩み、目の前の小さな一步を一つひとつ積み重ねるう
ちに、少しずつ道は開かれていったのです。

書籍概要

タイトル:「やってみたい」と思った今がそのとき

著 者 :花岡理恵

ページ数 :184ページ

価 格 :1,540円(10%税込)

発行日 :2025年6月17日

ISBN :978486667-756-9

【目次】

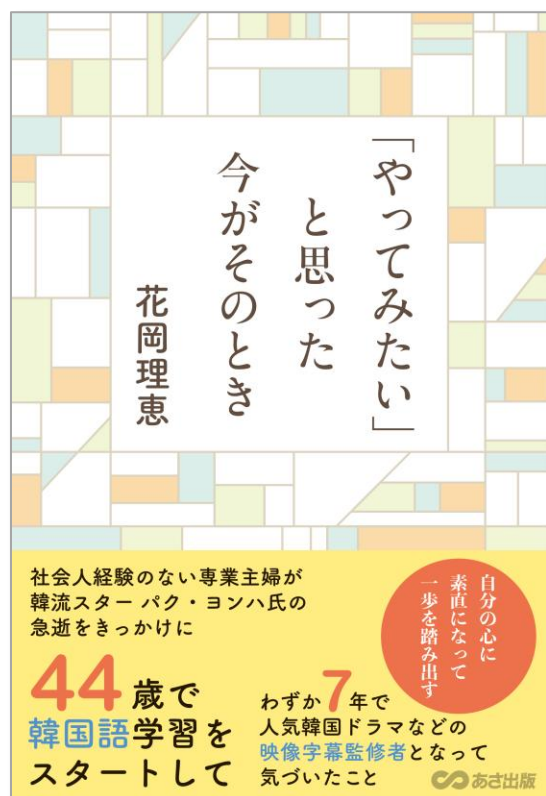
第1章 何がきっかけで人生がどう変わるか、
誰にも予想はできない

第2章 日々の生活を受け止めた先に道は続く

第3章 「自分らしく」生きるとは

第4章 「人の目」より自分に向き合う

第5章 「夢中になれる」何かを見つけると



著者プロフィール



花岡理恵(はなおか・りえ)

韓国(アジア)映像字幕監修者／翻訳実務士®(韓日)

1966年、東京・渋谷生まれ。帝京大学文学部国文学科(現・日本文化学科)卒業後、早稲田大学大学院研究生(日本語日本文学専攻)となる。まもなく結婚をし、約25年間専業主婦として過ごす。

2010年、重度のうつ病に苦しむ中、生きる希望となっていた推しの韓流スター、パク・ヨンハ氏が32歳の若さで命を絶った際に「心が救われて極端な選択を踏みとどまれた感謝の気持ちを、ヨンハのお墓に行って韓国語で伝えたい」と思ったのがきっかけとなり、2011年・44歳で韓国語学習を開始。2017年、有限会社西ヶ原字幕社・映像翻訳スクーリング修了。同年、51歳で配給会社である株式会社コンテンツセブンに韓国ドラマの字幕監修者として入社。韓国語の学習開始からわずか7年で字幕監修者としてデビューした。

2019年よりフリー。2021年、翻訳実務検定「TQE®」に初受検にて合格(韓→日)し、「翻訳実務士®」の資格を取得した。
主な監修作品に『リッチマン〜嘘つきは恋の始まり〜』『バッドパパ』『テプンの花嫁〜愛と復讐の羅針盤』『危険な約束』『高麗契丹戦争』などがある。